

愛知の博物館

No.30



西木四斗甕

目 次

○知多木綿の技術伝承	山 原 紀 子	2
○愛博協の研修会に参加して	荒 木 実	3
○新設館紹介	常滑市民俗資料館	4
○昭和56年度愛博協総会報告		4
○表紙写真	岩 田 正 人	6
○事務局だより		6

「知多木綿の技術伝承」

山原紀子

知多木綿の江戸送りは、慶長年間にすでに行われていたという。この頃は、生白木綿といつて白く晒していないものだった。

当時は、綿を作り糸を紡いで布に織って仲買人に渡して賃金をもらっていた。

この機織の仕事は農家の婦女子の仕事で、唯一の現金収入として欠くことのできないものであった。そのため「機の織れない者は、嫁に行けぬ。」とさえ言われた。

知多木綿が大きく発展した影には、こうした多くの女の人の手仕事があった。

織機が機械化され工場化していくと、女人も工場に勤めるようになるが、昭和の初期まで家織と言われる手仕事は続けられていた。

江戸時代から連綿と続いてきた機織と私の出会いは、昭和49年に始まる。資料館の糸の切れた機の修理をしたいと思い、近くの老婆に糸の繋ぎ方を習いたいと申出たところ、「機の織れん者に糸はつなげん」と言われ、機織の技術指導を受けることになった。

連日の特訓のかいあって、2ヶ月で一応学ぶことができた。

その間に、織の技術を持つ人が残り少ないと知り、「道具は動かしてこそ、はじめて道具本来の姿にかえる」という考えのもとに、技術を修得し、伝承することを考えた。

教室を開催するためには、道具を点検し、補修する必要があった。そして、不足する道具を集めることも考えなければならなかった。

道具を点検し、補修をし、口こみによる調査、収集を開始した。技術を修得したあとであつたため、資料も集めやすく、ポイントを押えた収集ができたと思う。現在、15台の織機があり、使用できるようになっている。

54年4月から機織教室を開催することにした。20名の受講者を募集し、グループ指導という形をとった。技術は母から娘に、姑から嫁にと受継がれ、1対1で習うことが多かったため、講師（78才と77才の老婆）2名に受講者20名では教えられないと考え、助手を務めて下さる人を2名と私を加えて、1グループ4人に1名指導者がついて教室を始めた。始めてみて私自身技術を身につけていてよかったですといふことが分かった。

技術的なことは講師にお願いし、理論的な講義やスライドを使用しての講義は私が受持つことで、かなりスムーズに技術指導ができたと思う。

単に人まかせの教室を開催するだけでなく、職員が技術を修得し、道具を使いこなせるようにするのも必要だと痛感した。

現在、教室も3年目を迎え、新たに20名の受講者を募集した。最初の教室の卒業生は2年間の技術修得のあと10名が友の会を作り、後輩の指導に当っている。<知多市民俗資料館 学芸員>



機織教室講師
桑山とくさん(78才)と角野たつさん(77才)
(右) (左)



教室の学習風景

愛博協の研修会に参加して

荒木 実

鳳来町役場において長篠城趾史跡保存館丸山彭館長の「設楽原決戦場について」のお話、この戦において色々な謎を秘めている。三千挺の鉄砲は三段構えにしろ一度に打ったとは、武田軍はなぜ織田・徳川の連合軍の待構えている陣地へ飛込んで行ったのか、鳥居強右衛門が泳いで行った時間はどの位か、実際に最近実験した人がある。武田軍の1万5千もの軍団が1ヶ月も滞在している場合の糞尿譚で落となつた。続いて戦跡をマイクロバスで尋ねる、先づ長篠城趾で史跡保存館を見学する。ケース内に展示されている貴重な遺物は物語順に組立てあり見学する。外に出て古戦場の所々を指示した廻廊の展望筒、長篠城の自然を利用した堀の深さなどを実地見分する。更にバスを走らせて戦跡巡りは広がってゆく、決戦場では連吾川をはさんで両軍の陣形と激戦の状景など、信玄塚に行き露と消えた無名の戦士達の冥福を祈る。戦線の北端、信長の本陣になった茶臼山辺に行って設楽ヶ原の戦線の長さ、陣形の大きさが漸くつかめた。最終に長篠城を橋の上から眺めて天然の要害を認識しました。長篠城の博物館の意味もこれだけ親切丁寧に時間をかけて説明案内下され誠に尊い学習ができたと共にローカルな博物館のあり方がのみ込めた様に感じられた。

三河大野の若松屋と云う旅館は文化財の中に居る感じで町並保存を祈りたい。翌日のシンポジュームは飾り気のない小さな室で落着きがあったのであろう、発言も盛んで熱心な討議が続いて身の濃いものであったにもかゝわらず短かい時間に感ぜられた。

そして午後はヨコタ南方民族美術館の見学も幾度か来ているものの横田さんの解説を聞きながら見ていくことの楽しさはつきることがない。愛博協の余有ある2日間の企画であったが、どうして、みる間に時間はたってしまい、研修会の名にふさわしい成果を得たことを皆様に感謝申します。

<荒木集成館 館長>



研修会風景 一丸山館長の現地説明

新設館紹介

常滑市民俗資料館

(所在地) 〒479 常滑市瀬木町4丁目203番地
(電話) (05693) 4-5290
(開館時間) 9時~16時30分
(観覧所要時間) 1時間
(入館料) 無料
(休館日) 月曜日・祝日・12月28日~1月4日
(交通案内) 名鉄常滑駅下車 知多半田行バス
10分草木口下車 徒歩7分
(施設) 敷地8,414m² ○本館 鉄筋コンクリート造 2階建延1596.1m²
(1階) 展示室304.1m² 展示ホール88.9m² 特別展示室98.3m² 未整理・補習工作室92.2m²
事務室49.6m²
(2階) 講座室108.9m² 学芸員・図書室77.6m² 会議室48.8m²
○埋蔵文化財収蔵庫 鉄筋コンクリート造2階建延484.8m²
○簡易収蔵庫 鉄骨造1階建118.5m²

(沿革・概要) 常滑窯業の歴史は平安時代後葉より始まり900年に亘り脈々と生きづいています。その歴史を知る手立てとして昭和46年より窯業に関する民俗資料の収集を開始し、昭和50年9月に「常滑の陶器の生産用具と製品」1655点が国指定重要有形民俗文化財となりました。

それにあわせて民俗資料館建設構想が出され、昭和54年度より資料館の建設に着手し、昭和56年4月7日に開館いたしました。

(収蔵品・展示内容) 重要有形民俗文化財1655点を中心に考古・歴史・窯業民俗資料など3000点余を収蔵。展示ホールでは「常滑の窯業のあゆみ」をテーマに縄文・弥生・中生・近世・近代の常滑の窯業史を紹介する。展示室には江戸末期から昭和前期までの窯業民俗資料の生産用具、製品を展示し、用具の使い方をビデオでまた常滑の900年間の歴史を三面マルチスライドで紹介する。

(事業) 特別展年4回開催。講演会、各種講座の開催。

資料館だより年2回発刊。出版 展示品図録 特別展パンフレット



※常滑市民俗資料館 梅原啓三さんの原稿によります。

常滑市民俗資料館

昭和56年度愛知県博物館協会総会報告

4月30日本に財團法人岩田洗心館にて33名の出席により今年度の総会が開催されました。あらましは、以下のとおりです。

1. 会長あいさつ
愛知県文化会館長 片山和夫
2. 来賓あいさつ

愛知県教育委員会文化財課主査 服部鉄治

3. 開催館 あいさつ

岩田洗心館理事長 岩田不二子

4. 表彰

功労賞

市立名古屋科学館技術課長 平沢康男

名古屋市博物館学芸員 西田躬穂

奨励賞

博物館明治村主任 大崎宗雄

知多市民俗資料館学芸員 山原紀子

5. 議題

(1) 昭和55年度事業報告及び決算報告

異議なしの声により承認される。

(2) 昭和56年度事業計画及び予算案

異議なしの声により承認される。

(3) その他

新加盟館 あいさつ 桑山美術館事務長 桑山泰幸

この他に、ガイドブック「愛知の博物館」は、販売価格 500円加盟館斡旋価格 400円に決まりました。このあと岩田洗心館の展示室および庭園を見学して盛会のうちに終了しました。

なお、この総会の開催につきましては、岩田洗心館の理事長岩田不二子さん、評議員の岩田正人さん、その他館員の皆様の多大なるご協力を得ました。

愛博協昭和56年度 事業計画

1. 事業

(1) 研修会の実施(年1回)

博物館関係施設に勤務する職員を対象に行う研修

(南設楽郡鳳来町大野にて6月開催)

(2) 東海地区博物館連絡協議会昭和56年度総会への参加

(3) 第6回三県博物館協会交歓研究会の実施

(北設楽郡東栄町にて11月開催予定)

(4) 表彰事業

協会加盟館(園)に勤務し、特にその発展に寄与した者を表彰

(5) 印刷物の作成・配布

○協会報「愛知の博物館」を発行し、会員施設及び全国関係施設に配布

(年3回程度発行)

○ガイドブック「愛知の博物館」の増刷

2. 会議

総会(施設代表者会議) 1回

理事会 2回

表彰選考委員会 1回

事業実行委員会 3回

表紙写真

呂宋四耳壺(真壺)

高さ	325mm	口径	112mm
胴径	296mm	底径	123mm

素地は砂粒のまじった黄白色のよく焼締められた炻器で、爪で弾くと青銅器様の高い音がし、極めて軽い。器型は左輶轡成形の丸壺で、やや張り気味の肩に四つの耳が横に付けられている。下部約五分の一を残して、暗褐色のつやのある釉がかかった中に、淡黄乃至黄褐色のふき出しが散見される。底は上へそりこみ、「底腹ニ入モノハ能ク茶ヲ養フ」の言葉どおりで、茶壺に適した形状をしているといえよう。

寄附目録およびその元帳となった岩田家御宝帳には朝鮮茶壺とあり、昨年、愛知県陶磁資料館で開催された「犬山焼展」準備のため来館された江崎氏によって呂宋真壺であることが指摘されるまで、朝鮮物ではなく南方渡りのものとして琉球壺といわれていた。岩田家伝來當時すでに素性不明となっていたことがうかがわれる。其箱と思われる収納箱は漆塗で収蔵方法も細心であり、いわゆる家宝の茶壺といった扱いをうけていたとおもわれるが、残念ながら前の所有者・伝来時期については一切不明である。

岩田正人<財団法人岩田洗心館 管理人>

事務局だより

○桑山美術館と豊橋市地下資源館が新しく協会に加盟しました。桑山美術館は、絵画・茶道具を中心に美術工芸品の展示・公開をする館で、庭園内には茶席も設けられています。7月31日まで開催されていた開館特別記念展を見ますと、速水御舟・横山大観・川合玉堂ら14作家による秀作16点が陳列され、その収蔵品の素晴らしさに驚かさせられました。所在地は、名古屋市昭和区山中町2丁目12番地で、電話番号は<052>763-5188です。豊橋市地下資源館は、昨年11月にオープンした館で、小中学校児童・生徒を主なる対象にして、地下資源やエネルギー問題に深い関心を寄せててくれる事を願い設置されたものだそうです。パンフレットを見ますと、最新のジオラマや映像装置が用いられており非常に近代的な館の感じがして、これから活動が期待されます。所在地は、豊橋市大岩町字火打坂19の16で、電話番号は<0532>41-2833です。

※ 訂正のお知らせ

さきにご送付いたしましたガイドブック「愛知の博物館」の入場料金において、下記のとおり2ヶ所誤りがありましたので、深くお詫びすると同時にお知らせします。

○26ページ(博物館明治村)

団体(25名以上)

	誤	正
大人	800円	900円
高大生	650円	→ 700円
小中生	350円	400円

○73ページ(伊良湖自然科学博物館)

	誤	正
大人	150円	200円
中高大生	100円	→ 150円
小学生	80円	100円

「愛知の博物館」 No.30
発行日 昭和56年8月
編集・発行 愛知県博物館協会
名古屋市東区東桜一丁目12番1号
愛知県文化会館内
TEL <052> 971-5511